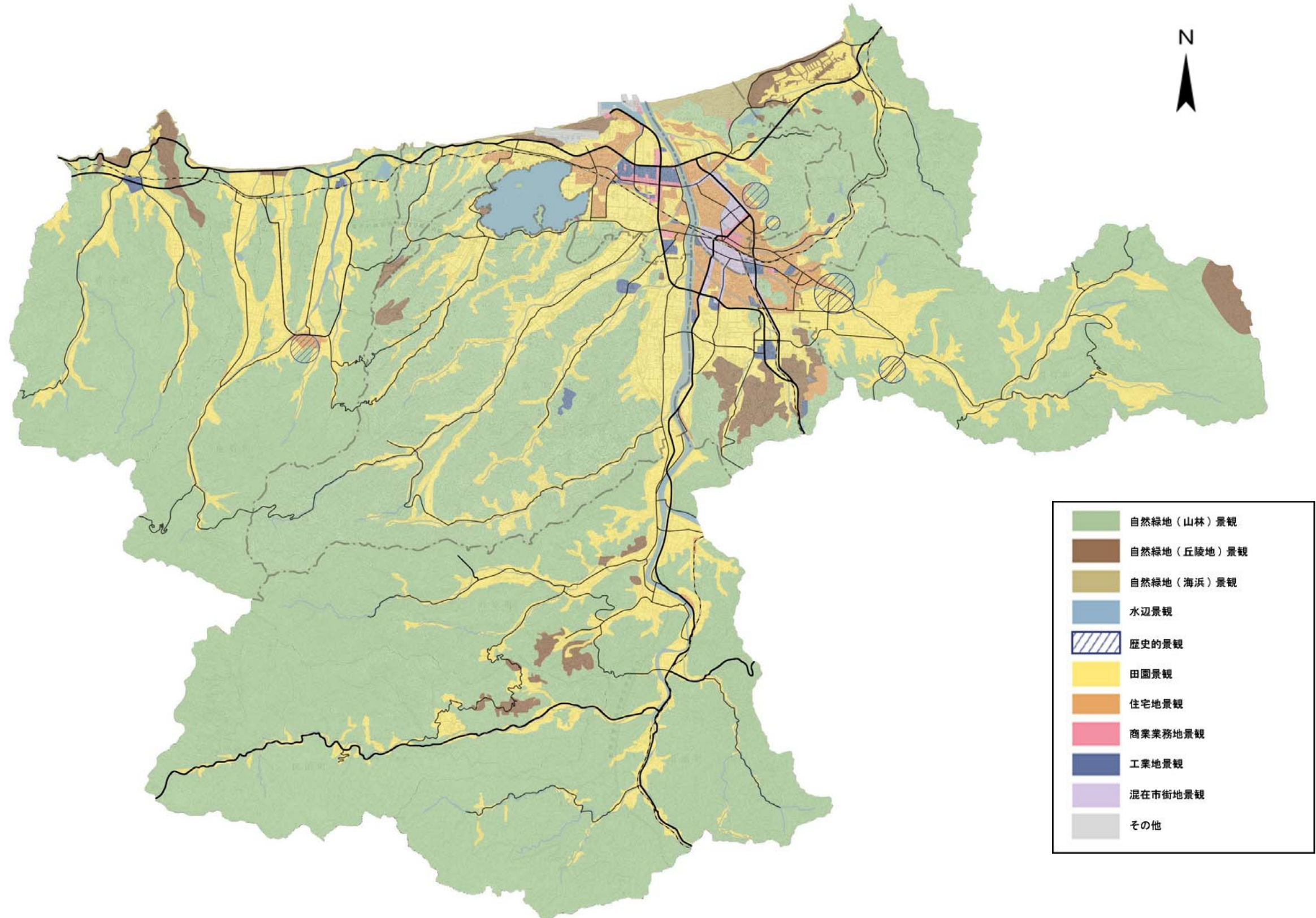


3. 景観特性・課題の整理

3-1. 景観要素別の特性・課題の整理

(1) 景観要素の分類

本市の景観は、田園や丘陵地、山並み、海浜などが織りなす自然的な景観と、商業・業務地や住宅地などの市街地で構成される都市的な景観に類型できます。自然的景観は地形や地勢から「山林」、「丘陵地」、「海浜」、「水辺」、「田園」に、また都市的景観は、土地利用等の状況から「住宅地」、「商業・業務地」、「工業地」にそれぞれ分類できます。これに加えて、歴史的たたずまいのある旧城下町や歴史的資源が集約したエリアを「歴史的景観地区」として位置づけます。



①自然緑地景観

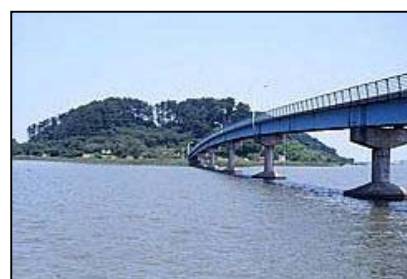
千代川河口の東には、日本最大の砂丘として知られる鳥取砂丘があり、自然によって造りだされる幻想的な風紋やすり鉢が人々を魅了し、年間約 220 万人の観光客が訪れます。一方、河口から西に広がる海浜部には、ハマナス自生南限地帯でもある白兔海岸、白砂の美しい浜村海岸など風光明媚な砂浜の海岸線が続き、夏には多くの海水浴客でにぎわいます。また、中心市街地には、地域のランドマーク（土地の目印）として久松山がそびえ、周辺の山並みと相俟って市街地景観を豊かに保っています。市街地外縁部には、比較的なだらかな丘陵状の山地が形成され、その背後には急峻な山々が重層的に連なり、深い緑と滝や溪谷が織り成す景観が美しく、四季を通じて豊かな自然景観を創出しています。



②水辺景観

市内には、鳥取県三大河川の一つである千代川（流域面積では県最大、長さは県内で2番目の河川）があります。千代川は、その源を鳥取県八頭郡智頭町の沖ノ山（標高 1,319m）に発し、佐治川、八東川、袋川等の支川を合わせて鳥取平野を北流し日本海に注いでいます。千代川流域では、旧暦三月三日に行われる「流しびな」をはじめとした伝統行事の他、花火大会、アユ祭り等、様々なイベントが開催されるとともに、健康・癒し、環境学習の場としても広く市民に活用されています。

鳥取平野の西側には、日本一の広さを誇る湖山池があり、市民の身近なレクリエーションの場になっています。湖山池西岸では、全国的に珍しい石がま漁が行われ、ウナギやコイ、アマザキ、寒ブリなど珍味の宝庫になっています。また、防己尾城跡からの湖山池の眺めは「因幡八景」に描かれるほどで、かつては因幡圏内でも有数の景勝地であったことがうかがえます。



③歴史的景観

本市には、鳥取城跡、鹿野城下町、因幡国庁跡をはじめ、数々の名所旧跡が当時の面影を残しています。豊臣秀吉の兵糧攻めで有名な鳥取城は、戦国大名山名氏が築いた城で、今も残る山門や石垣などが当時を偲ばせており、春には桜の一大名所として多くの見物客でにぎわいます。

また、鹿野は、亀井茲矩によって営まれた城下町であり、町割りは今も残っており、武家屋敷のあった殿町、商人町の上町・下町、職人町の紺屋町など、城下町の面影を現在に伝えています。



④田園景観

農業は、本市の基幹産業のひとつであり、市域郊外にのどかな田園風景が広がっています。田植え、草取り、実りの秋までそれぞれの時期に異なる表情をみせる田や畑の景観は、鳥取市の原風景といえます。また、果実の生産風景や、山間部を中心とした酪農風景など多様な「農」のある景観が感じられるのも特徴的です。鳥取砂丘の東側では、砂地を利用したラッキョウの栽培が行われており、10月下旬には赤紫色の花を咲かせ、個性的な景観を生み出しています。



⑤道路景観

道路は、都市の骨格となる幹線道路から区画道路まで体系的なネットワークを形成し、主要な公共空間として街なみ景観の形成に大きな影響を与える要素のひとつとなっています。

本市の道路網構成は、国道9号、国道29号及び国道53号が、都市間交通の主要な動線になっています。また、県東部地域住民の長年の悲願である鳥取自動車道(鳥取県側)の開通が平成21年度に見込まれるとともに、山陰道、鳥取豊岡宮津自動車道の整備進展に伴い、交流・物流の拠点として、さらなる発展が期待されます。

市街地内では、商業施設等の看板などが視線に入ってきてやすいため、久松山への良好な山あて景観の保全や、周辺景観との調和などが特に求められます。また、街路整備事業等により街路樹が整備された路線では、緑豊かで良好な道路沿道景観が形成されています。



⑥住宅地景観

本市の住宅地区は、市街地中心部の住宅地、その周辺の市街地内の住宅地、郊外の農家住宅等を中心とした住宅地に区分されます。

市街地中心部では、土地利用の混在により住宅以外の建築物の居住環境への配慮が求められるとともに、周辺部の住宅地では、街区の整形や公園等の整備により生活環境の向上を図る必要があります。また、土地区画整理事業により整備された住宅地や郊外の住宅地では、緑豊かな住宅地景観を保全していく必要があります。



⑦商業業務地景観

鳥取藩32万石の城下町として栄えた鳥取市は、県都、観光都市の二つの顔を持ち、政治・経済・文化の中心地として拡大を続けてきました。その中枢を担うのが、JR鳥取駅を中心としたエリアであり、商業・行政・業務施設が集積した市街地を形成しています。しかし、都市の外延化や郊外の大型店等の進出によって、空き店舗や空き地が目立つなど商業活動が停滞し、中心市街地としての都市機能が衰退している状況にあります。このため、にぎわいと活気に満ちた都市の活力と風格を高める商業業務地景観への転換が、課題になっています。



⑧工業地景観

山陰地方で第1位の工業生産を誇る本市の工業地には、現在分譲中の新津ノ井工業団地をはじめ、布袋工業団地、高浜工業団地等があります。工業団地によっては、敷地周辺の緑化が十分でないなど環境整備の充実が望まれる区域もあります。



⑨公園緑地景観

本市には、山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園、西因幡県立自然公園をはじめとする豊かな自然公園が数多くあります。また、街区公園や近隣公園等の都市計画公園も、市街地の良好な景観を維持する上で重要な役割を担っています。

なかでも、湖山池の東側に位置する布勢総合運動公園は、昭和60年の国体、平成7年の全国高校総体のメイン会場としても利用されており、運動施設以外にも、広場や桜の園など、自然にふれあえる施設も豊富で、心身共にリフレッシュすることができます。



⑩その他景観

その他本市を特徴づける景観として、鳥取温泉、吉岡温泉、鹿野温泉、浜村温泉等、温泉街周辺の景観があります。現在は、日帰りの温泉利用施設等、観光客や地域住民のやすらぎの場として利用されている他、温泉を中心に、関西・山陽側からの玄関口として都市部からの交流人口を見込んだ長期滞在型の観光地づくりが進められています。

